

ILC縮小計画

一 関市長が歓迎

誘致方針決定に追い風

国際リニアコライダー（ILC）の建設をめぐり、日米欧を中心とする国際将来加速器委員会が、加速器の規模を当初の3分の2となる20^{km}に縮小する計画変更を承認したことについて、建設候補地がある一関市の勝部修市長は13日、「たいへん喜ばしいことで待ち望んでいた」と述べた。建設費用が4割減の約5千億円に抑えられ、政府の誘致方針決定に「追い

風」になるとみている。

規模縮小について勝部市長は「大きな問題はない。直線型であれば（必要に応じて）両側に付け足していくことが可能だ」とした。20^{km}の場合、施設は同市を中心とした地域に収まる見込みという。

一方、11日には候補地の同市大東町の2カ所で、東北大と県による地質調査の住民説明会があった。説明会で県科学ILC推進室の佐々木淳室長は、来夏とされる政府の方針決定後、「（施設の運用主体の）研究所と参加国で結ぶ国際条約の準備などに4年、建設

に10年かかり、運用開始は最短で14年後になる」との見通しを示した。（泉賢司）